

かながわ京浜臨海部ニュース 平成29年 5月号

今号のINDEX

- ・ 「(仮称) 臨海部ビジョン」の策定を進めています！ p1
- ・ ~横浜から世界へ、新しい「価値」の発信を
「LIP. 横浜」キックオフイベント開催！ p2
- ・ 一京浜臨海部立地企業のご紹介—
合成ゴムの製造工場 日本ゼオン株式会社 p3
- ・ 「川崎国際環境技術展2017」が開催されました！ p4

「(仮称) 臨海部ビジョン」の策定を進めています！

川崎市では現在、「(仮称) 臨海部ビジョン」の策定に取り組んでいます。本ビジョンは、平成29年度に策定を予定しており、川崎臨海部の30年後を見据えた中長期ビジョンです。

臨海部では近年のグローバル化に伴い、産業構造が転換する中、既存産業の企業再編や生産拠点の統合等が進められています。また、長年の操業による設備の老朽化が進む中、現行法規制との適合問題など設備更新に向けた課題に直面しています。その一方、キングスカイフロントでのライフサイエンス分野の国際戦略拠点の形成や、水素戦略に基づくリーディングプロジェクトなど、新しい産業の核づくりが進められています。こうした様々な動きの中、我が国及び本市が直面する大きな変化を乗り越え、持続的に発展し続けるためには、本市と立地企業が長期的に目指すべき将来像や考え方を共有し、また本市の様々な施策を有効に機能させていく必要があります。

本ビジョンは、このような変化の激しい状況下においても、長期的な視点からの課題解決やポテンシャルの発揮を通じて、本市の「力強い産業都市づくり」の中心として持続的に発展し、産業と環境が高度に調和した地域として日本の成長を牽引できるよう、臨海部の目指すべき将来像や、その実現に向けた戦略、取組の方向性を示すものです。

策定の手法として、30年後を見据えた臨海部の目指す将来像を十分に議論し、立地企業等とその将来像を共有した上で、その実現策として直近10年間に取り組むべき方向性や、先導的・モデル的に実施するプロジェクトを検討するバックカスティング手法により策定を目指しています。

本市では策定に向けて、昨年9月に「臨海部ビジョン有識者懇談会」を設置し、これまでに3回の会議を行ってきました。また、産学公民で臨海部の活性化を目指す川崎臨海部再生リエゾン推進協議会との情報共有や、立地企業、周辺自治体へのヒアリングを行っています。今後も有識者、企業、関係者との意見交換を重ね、プロセスを重視したビジョン作りを行い、臨海部立地企業・市民と共有できるものを目指します。



■ 問合せ先 / 川崎市臨海部国際戦略本部臨海部事業推進部 電話：(044)200-2075

～横浜から世界へ、新しい「価値」の発信を～

「LIP.横浜」キックオフイベント開催！

横浜市では、理化学研究所の誘致やインキュベーション施設の整備、個別プロジェクトの支援など、他都市に先行してライフイノベーションを推進したことで、ベンチャー企業等の立地が得られたとともに、研究成果の一部が製品化につながるなど一定の成果をあげています。今後より一層、本市のライフイノベーションを推進し、研究開発成果を着実に産業化につなげていくためには、これまでの成果を活かして、大学や研究機関をはじめ、企業や金融機関等が連携する新たな仕組みが求められています。

こうした背景に基づき、本市では、理化学研究所や横浜市立大学などの大学・研究機関、製薬・医療機器メーカーをはじめとする企業に加え、金融機関等が連携する「横浜ライフイノベーションプラットフォーム（LIP（リップ）.横浜）」を立ち上げました。この仕組みにより、横浜から、健康・医療分野における新技術・新製品を生み出して産業化を促進すると共に、市民の健康増進を目指します。

【具体的な取組】

① 企業・大学・研究機関ネットワーク

理化学研究所や横浜市立大学、その他理工系大学や研究機関に企業や金融機関・ベンチャーキャピタルも加えたネットワークを構築し、大規模プロジェクト等を創出することで、横浜からライフイノベーションを起こし、産業化を図ります。

② 中小企業支援スキーム

中小企業が進める研究開発について、事業計画の策定等を支援することで、着実な製品化・商品化を目指します。

同事業の立ち上げに際し、この取組に参加・協力いただく国内有数の大手製薬・医療機器メーカーをはじめとした32社・団体の皆様とともに、平成28年12月1日に「キックオフイベント」を開催しました。同イベントでは主催する横浜市の市長をはじめ、「LIP.横浜」の中核的な協力機関である理化学研究所理事、横浜市立大学理事長にご挨拶をいただきました。また、事務局から「LIP.横浜」における仕組みについて紹介するとともに、「企業・大学・研究機関ネットワーク」の最初のプロジェクトとして、理化学研究所から横浜市立大学との間で実施していく共同研究の内容を発表しました。当日は、約150名の方にご参加いただき、盛況のうちに終了となりました。

29年度には、この「LIP.横浜」を本格稼働させ、横浜から新たなプロジェクトを持続的に生み出し、中小企業のビジネスチャンス等につなげてまいります。

現在、「LIP.横浜」へ参加いただける企業の皆様に募集しています。ライフイノベーション関連分野に既に参入している、もしくは今後取り組む意欲がある企業を対象に、市内・市外・企業規模等は問わず幅広い企業の皆様のご参加をお待ちしています。



キックオフイベント当日の様子

【LIP.横浜ホームページアドレス】

<http://www.city.yokohama.lg.jp/keizai/sogyo/life/lifeof.html>

■ 問合せ先／ 横浜市経済局ライフイノベーション推進課 電話：(045)671-2037

—京浜臨海部立地企業のご紹介—

合成ゴムの製造工場 日本ゼオン株式会社

「かながわ京浜臨海部ニュース」では、京浜臨海部に立地する企業の取組や事業内容についてご紹介しています。

今回ご紹介するのは、川崎市川崎区夜行に立地する日本ゼオン株式会社川崎工場です。京浜石油化学コンビナートの一角に位置する日本ゼオン(株)川崎工場は、1959年に我が国で初めて合成ゴムの量産を開始した工場です。

川崎工場での製造商品やその歴史を中心に、日本ゼオン(株)の事業について、川崎工場総務人事課の伴野真大さんと波塚俊夫さんにお話を伺いました。

合成ゴムを生み出す

—日本ゼオン(株)ではどのような商品を製造しているのでしょうか。

「ゼオンの主要製品は、ナフサ中のC4留分、C5留分をゼオン独自の技術で抽出したブタジエン・イソプレン等を原料とし、合成ゴムや合成ラテックス、化成品（熱可塑性エラストマー、石油樹脂）、スペシャリティケミカル素材などを製造しています。当社で製造した合成ゴムは、自動車の重要保安部品（ガスケットや燃料ホース等）やタイヤなどの用途、合成ラテックスは、医療検査用・食品加工用のゴム手袋、化粧用パフ、塗工紙のコーティング剤などの用途、化成品は路面標示用塗料、紙おむつなどの用途に使用されています。」

—合成ゴムと合成ラテックスの両社の違いはどこでしょうか。

「もともと「ラテックス (Latex)」というのは、ゴムの樹を傷つけると浸み出してくる白い樹液の英語名です。この樹液にはゴムの成分が含まれていて、これを加工して水分や不純物を取り除き、ゴム成分だけを塊にしたものが「天然ゴム」です。弊社で製造しているのは、この液状のラテックスや固体状のゴムを工業的に化学合成したもので、正しくは「合成ラテックス」、「合成ゴム」と呼びます。」



合成ゴム



合成ラテックス

川崎工場について

—川崎工場の歴史や特徴を教えてください。

「川崎工場は、1959年に操業を開始し、合成ゴムと合成ラテックスの生産を始めました。合成ゴムに関しては日本国内で始めて量産を開始した工場です。川崎工場の敷地面積は7万5000㎡で、ドーム球場約1.5個分の面積ですが、同じ業種の工場と比べると比較的小規模な工場と言えます。川崎工場で製造される合成ゴムの特徴は、耐熱性・耐油製が高いことで、自動車のエンジン周りの部品やホースなどで使用されます。合成ラテックスではゴム手袋用の他、いわゆる「都市型工場」としての特徴を生かし、化粧用パフや不織布などに使われる、比較的付加価値の高い少量多品種の品揃えとなっています。」



川崎工場全景

—京浜臨海部に立地しているメリットとは何でしょうか。

「コンビナート地帯であることから、石油化学企業が多く集積しており、近隣企業から原料やユーティリティ（工業用水、電気、ガス、蒸気など）を調達することができるのが一番大きな立地の理由であり、メリットです。また、羽田空港に近いので、国内外問わずアクセスがとても良い点に加え、川崎工場で製造している製品は海外出荷しているものも多いので、流通の面では東京港・横浜港に近いこともメリットの一つです。」

—地域に根ざした活動を行っているとのことですが、どのような活動をしているのでしょうか。

「当事業所と隣接する4町内会の皆さまとの対話促進と、当社・当事業所の理解を深めて頂く事を目的に、年に一度「事業報告及び工場見学会」を開催しています。操業状況やトピックスをご紹介させて頂くとともに、プラントツアーの後に感想やご意見を頂く貴重な交流の場として、今後も継続していきます。また、日本化学工業協会 FC 委員会の川崎地区会員企業9社により、自治会役員をはじめとする地域のみなさまと地域対話を実施し、環境改善や保安防災などのレスポンシブル・ケア活動についてご理解頂けるように努めています。—読者の方にメッセージがあればどうぞ。

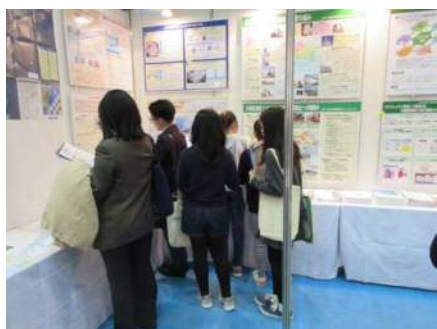
「日本ゼオン川崎工場は、地域社会との接点を大切にしています。夜光地区に加え、隣接する殿町・千鳥地区に立地する企業、および川崎市と合同で、当地区の動脈である幹線道路「殿町夜光線」の定期一斉清掃に参加しています。また、夏に開催する納涼崔に近隣町内会や近隣企業の方々をお招きし、ゼオン従業員による地方会自慢の郷土料理をご一緒に楽しんでいただいています。今後もさまざまな活動を通じ、地域社会との共生を目指していきます。」

■ 問合せ先／ 神奈川県政策局自治振興部地域政策課 大橋 電話：(045)210-3255
(日本ゼオン株のホームページはこちら⇒ <http://www.zeon.co.jp/>)

「川崎国際環境技術展 2017」が開催されました！

平成 29 年 2 月 16 日 (木) ~ 17 日 (金) に、「川崎国際環境技術展 2017」が、川崎市中原区のとどろきアリーナで開催されました。川崎国際環境技術展は、国内外の環境問題に即応する環境技術から地球環境問題を解決する最先端の環境技術まで幅広く展示を行い、川崎の地から国内外へ発信し、出展企業・団体と国内外の企業等とのビジネスマッチング場を提供することを目的に、平成 21 年から継続的に開催されています。

今年の技術展は、市内企業を中心に 133 団体 216 ブースが出展し、2 日間あわせて約 15,500 人にご来場いただきました。海外からは中国、韓国、オーストラリア、オランダ、モンゴル、駐日大使館などを含め、45 カ国から約 200 人が参加し、国際色豊かな技術展となりました。



技術展の中では、市長のプレゼンテーションや低 CO2 川崎ブランド'16 認定結果発表会、NEDO 技術セミナー、市内企業による周辺小学生への環境出前授業をはじめ、多くのステージプログラムやイベントが開催されました。

京浜臨海部の立地企業 14 社等で構成される「京浜臨海部コンビナート高度化等検討会議」も出展し、企業間連携を通じた生産活動の効率化や省エネルギーの取組を紹介し、約 550 名の来場がありました。また、検討会議メンバーの東燃ゼネラル石油株がベストブース大賞を受賞しました。

■ 問合せ先／ 川崎市経済労働局国際経済推進室 電話：(044)200-3213

編集・発行・問合せ先

神奈川県政策局自治振興部地域政策課 担当：大橋 〒231-8588 横浜市中区日本大通1

電話 (045)210-3255 ファクシミリ (045)210-8837

ホームページ <http://www.pref.kanagawa.jp/div/O602/>

(お問い合わせは、こちらのホームページ下部の「お問い合わせフォーム」からお願いします。)